

みやこはし 京の橋しるべ

第21号

(令和4年5月発行)

◆ 橋の健全化に向けて

京都市では、橋りょうの健全化（耐震補強、老朽化修繕）を効率的・効果的かつスピード感をもって実行するため、平成23年12月に「いのちを守る 橋りょう健全化プログラム」【第1期】（取組期間：平成24～28年度）及び平成29年2月に「いのちを守る 橋りょう健全化プログラム」【第2期】（取組期間：平成29～令和3年度）を策定し、取組を進めてきました（本紙創刊号、本紙第11号を参照）。

計画期間を20年間（5年ごとの4期間）としており、令和3年度末で第2期の取り組み期間が終了したところです。

引き続き、市民の皆様の「いのち」と「暮らし」を守るべく、「橋の防災力」を高める健全化対策を進めるため、令和4年3月に「いのちを守る 橋りょう健全化プログラム」【第3期】（取組期間：令和4～令和8年度）を策定しました！

※第3期プログラム策定の詳細

<https://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000294887.html>



◆ プログラムの概要

計画期間 (区分)	耐震補強	老朽化修繕
全体 (20年間)	耐震補強を行う橋りょう 57橋対策完了予定	早期に対策が必要な橋りょう 325橋対策完了予定
第1期 第2期 H24～R3	<ul style="list-style-type: none"> 緊急輸送道路上の橋りょう ・跨線橋、跨道橋 28橋対策完了（実施率49%）	<ul style="list-style-type: none"> ・損傷が特に大きい橋りょう ・損傷が大きく緊急輸送道路上の橋りょう 55橋対策完了（実施率17%）
第3期 R3～R8	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急輸送道路上の橋りょう ・跨線橋、跨道橋 計画：4橋対策完了予定 (実施率56%)	<ul style="list-style-type: none"> ・損傷が大きく緊急輸送道路上の橋りょう 計画：1橋対策完了予定
第4期以降 R9～	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急輸送道路上の橋りょう ・跨線橋、跨道橋 計画：25橋対策完了予定 (実施率100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・損傷が大きい269橋 損傷の度合いを中心に路線の重要度を踏まえ優先順位を設定して対策を実施

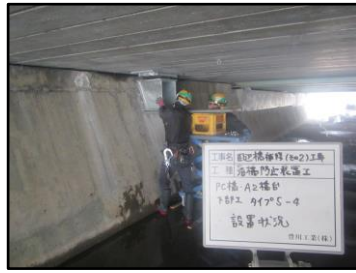
「緊急輸送道路」：大規模な地震等の災害が発生した場合に、救命活動や物資輸送を円滑に行うために、府や市などが事前に指定した道路のことです。

「跨線・跨道橋」：鉄道をまたぐ橋、または道路をまたぐ橋のことです。
これらの橋の工事を行う場合、工事時間帯が電車や車の走らない夜間に限られ、鉄道や道路の安全性を確認しながら進めるため、他の橋りょうより工事期間が長くなります。

◆ 第2期プログラムで取り組んだ橋の紹介

◎**耐震補強** 建設当初に設定した耐震性能を、近年発生した大きな地震に対しても耐え得る強度に高めるもの

- ・田辺橋（たなべはし）川端通上にあり左京区下堤町の琵琶湖疏水に架かる橋



落橋しないように部材を設置しました。



- ・淀高架橋（よどこうかきょう）宇治淀線にあり伏見区淀木津町の京阪本線に架かる橋

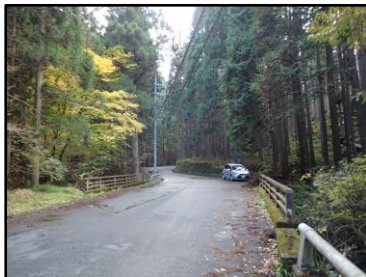


橋脚をコンクリートで補強しました。



◎**老朽化修繕** 古くなった橋を本来の機能が発揮できるように修繕するもの

- ・紅葉橋（もみじはし）国道477号線にあり左京区花背大布施町の別所川に架かる橋



柵・伸縮装置を取替え、舗装を修復しました。



- ・北野橋（きたのはし）今出川通上にあり北区北野上白梅町の天神川に架かる橋



柵を高上げ、舗装を修復しました。



◆ 京の橋の紹介 特別編

三条大橋 (さんじょうおおはし)

場所：中京区中島町，東山区大橋町

道路名：一般市道三条通

河川名：一級河川鴨川

橋の種類：鋼単純H型橋

橋長：73m

幅員：16.7m

完成年月：昭和25年4月



京の橋しるべ創刊号で紹介した三条大橋は、令和2年度より工事に向けた設計に着手し、「**三条大橋の補修・修景**」が始動しました！京都市はふるさと納税で三条大橋の補修・修景のための御寄付も募集しています！！

京都市で有名な橋といえばこの橋を挙げる方も多いのではないのでしょうか。東海道五十三次の西の起点であり、我が国最初の駅伝（*）のスタート地点にもなりました。

初めは遠く室町時代の造営とされており、天正18年（1590年）に豊臣秀吉が大改修を行い、現在の形となりました。その後、元禄、明治、大正に架け替えられ、現在の橋は、昭和25年（1950年）に改築されたものです。



（*）「東海道駅伝徒歩競走」として、大正6年（1917年）4月27～29日の3日間にわたり開催されました。



この橋の高欄の擬宝珠(ぎぼし)は、青銅製でよく見ると銘文が刻まれています。おおよその意味としては、「京都三条の橋は、後代まで往来する人々の助けとなる。しっかりした基礎は地中に五尋(ひろ) (約9.1m)の深さまで入り、切石の橋柱は63本ある。まさに日本の石柱橋としては最初のものだろう。天正18年(1590年)の正月の日に豊臣秀吉が世に初めて贈り、増田右衛門尉長盛が造営した。」となります。三条大橋の擬宝珠には池田屋騒動の時の刀傷が残っているとされていたり、桂小五郎と芸妓の幾松が橋の上と下に別れて忍び会ったエピソードなど、この橋は数々の歴史の証人となってきました。

◆ 京(みやこ)の橋しるべについて

私たち建設局橋りょう健全推進課では、市民の皆様の安心・安全な生活を守るため、京都市が管理する「橋」の耐震補強と老朽化修繕を進めています。

その取組を市民の皆様にもっと知っていただくため、また、私たちの日常生活を支えるかけがえのない「橋」について関心を持ってもらい、身近なものとして親しんでいただくため「京の橋しるべ(みやこのはししるべ)」というリーフレットを定期的に発行し、市民の皆様に「橋」にかかわる様々な情報を発信しています。

「道しるべ」は、道路に目的地までの距離や方向を示し、道案内のために設置されたものですが、「橋しるべ」は私たちの「橋」に関する取組などをわかりやすくお伝えして(案内して)いきたいということで名付けました。

発行・お問い合わせ 京都市建設局橋りょう健全推進課(TEL 075-222-3561)



京都市では、橋の歴史や補修取組、有名な橋を紹介した冊子「京(みやこ)の橋しるべ」と、道路や公園などの損傷箇所を投稿するアプリ「みっけ隊」を配信しています。詳しくはWebで！ [京の橋しるべ](#) 検索 & [みっけ隊 募集中](#) 検索

